

第4回復興まちづくり委員会(8/12)結果概要

あいさつ

<野田市長>

委員各位の協力で復興まちづくり計画の骨子ができた。また、国から復興基本方針、三陸縦貫道等のルートが示され、県において防潮堤の高さが決まり始めるなど色々な動きが出てきている。

市民の暮らしは、先日までの避難所から仮設住宅に移り、日々課題が変わっている。9月末までに復興計画をとりまとめていきたい。

<小泉委員長>

国や県から色々な方針が出てきたが、釜石市では平行して地域の人々の声を拾い上げている。“もう釜石には住まない”との声も聞こえてきているようだが、スピードを持ちながらもじっくりと今後の復興を考えていく必要がある。

報告事項

(1) 防潮堤の高さについて〔資料1〕 ...洞口建設部長から説明

質疑応答

【菊池委員】

巷では、今後もっと大きな津波が来ると言われているが？

<建設部長>

国内有数の学識者が名を連ねる国の委員会では、今回(3.11)の津波が最大と結論付けている。

<野田市長>

国の中央防災会議に出席しているが、その中の議論では津波は予測がつかないといわれている。

【長谷川委員】

防潮堤は既往最大のタイプA(資料1)を目指すべき。今となっては学識者でも眉唾といわざるを得ない。結果は分からないが、あくまでタイプAを整備目標に政治行動してほしい。

<野田市長>

造るなら大きいほうが良い。災害復旧は壊れたものを治すものだが、“粘り強い頑丈なものを”と要望してきた。防潮堤の高さは県が決めることになり、県は「H1」(既往第2位)の結論を出そうとしているが、「H2」はそれより高いので財源が大変だと思う。また、釜石港湾口防波堤の復旧については、中央では反対の声があるのも現実であり、国に無理難題をお願いしても実現は難しいと思う。

【長谷川委員】

普代村に高さ15mの防潮堤を作ったことの見聞性が評価されている事例が県内にある。

【小泉委員長】

高さ十数mもある防潮堤が本当にいいのかという議論もある。根浜や波板では防潮堤ができたことで砂浜がなくなった。防潮堤の復旧は何十年も待てるものではなく現実性が大事だ。

(2) 国の復興基本方針の概要について〔資料2〕 ...新張総合政策課長から説明

質疑応答なし

(3) 三陸縦貫自動車道等の整備ルートの概要について〔資料3〕 ...洞口建設部長から説明

【斉藤委員】

ルート案のとおり三陸縦貫道が整備されと平田地区が孤立する不安を払拭してほしい。国土交通省はどう考えているか？ 簡単に縦貫道にアクセスできるか？ 平田地区に配慮してほしい。

<建設部長>

釜石市内には概ね 5km 毎に IC が設置される予定。一部浸水区域を通過するが、平田地区が孤立しないための別の手立てを考えていく必要があると考えている。

<野田市長>

平田源太沢線の件では、関係地区の皆様にご迷惑をおかけしている。上平田ニュータウンから三陸縦貫自動車へ直接タッチさせることは困難との結論に至り、市内 2 箇所に IC を設置する計画が進められている。そろそろ、過去 (= 平田源太沢線) はあきらめ、新たな方向性を示す段階にきたと考えている。今回の震災では平田が孤立しており、そうならないための道路が必要と考えている。

【斉藤委員】

平田源太沢線は見通しなしと聞こえるが、それなら、唐丹と平田をつなぐことは考えられないか？

<野田市長>

三陸縦貫道はトンネルが多い上に、そこに通じるまで急勾配となるためつなげるのが難しい。

【小泉委員長】

平田は今回の震災で孤立したので、今は要望できる時期だと思う。

5. 協議事項

(1) 「新たな光づくり」に向けた取り組みの概要について ...各部長等

【風間委員】

クリーンエネルギー (資料 4・P9) について、釜石市は LNG に特化するのか、肉付けしていくのか？ また、スマートグリッドは色々定義があるが、何をやるか？ 安定電源に何を連携させるか？

<佐々企業立地推進本部副本部長>

太陽光の他、様々考えている。スマートグリッドはコジェネ (= コジェネレーション) など北九州市と連携してやっていきたい。どちらかというマイクログリッドに近い。基幹電源はバイオマスで、バックアップ電源について東北電力に協力をお願いしたいと考えている。

<野田市長>

釜石の今後の方向性を大きく変えるのがエネルギーへの取り組みと考えている。

【安久津委員】

今回の震災で一番活躍したのは LPG だ。LNG によって LPG はなくなるのか？

<佐々副本部長>

LPG はなくなるものではないが、産業面で LNG を活用していくものであり、LPG も併用していく。

【高橋委員】

雇用対策が課題。復旧についての言及が少なく感じる。公共施設の再配置についても示す必要があるのではないか。また、浜町近辺の地盤沈下が著しい。早急に対応してほしい。

<総合企画部長>

公共施設の再配置は重要で、部会だけでなく全体会議のような場で議論する必要があると考える。

<佐々副本部長>

まず復旧を最優先に考えているが、企業誘致に関しては、浸水地域に展開したい意向を持つ企業の

支援をしている。被災地域と非被災地域の間に温度差があり厳しい状況。釜石市の雇用保険対象者は11000人で、被災者は2700人といわれている。今後の釜石市の発展につながる企業に限定して話を進めており、こうした離職者の受け皿を担ってほしいと考えている。

< 洞口建設部長 >

浸水区域の沈下でご迷惑をお掛けしている。復旧の優先順位として、危険回避のため側溝の蓋、マンホールの蓋が流失したところから手を掛けている。岸壁の復旧も急いで行っていく。

【安久津委員】

仮設住宅に全員入居できた。次は何をするか、復興住宅の建設はいつ頃か...等々、市民が安心できる情報をどんどん出してほしい。

< 野田市長 >

ご指摘のとおり。過日、復興新聞に今後の当面のスケジュールを掲載したが、今後もあのような形で市民に情報発信していく。

(2)「部会」の設置について〔資料5〕...新張総合政策課長から説明
了承(質疑応答なし)

閉会